

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 12日

事業所名 発達支援ルームAQUA

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	人数や特性に合わせて部屋を使い分けている。子供達のニーズに合わせてられるように広い部屋と小さい部屋、構造化しやすいように工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	9	0	子供達が怪我なく安全に思いっきり身体を動かして遊べるように、人数に余裕を持って配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	2	入口とびらの段差が少しあるがスタッフ介助でサポート可能。扉がすぐ閉まらないようにストッパーを作成。	利用者に応じ、バリアフリー化等について検討する。マットがめくれて転びやすかったり、高学年の活発な子の活動ではスタッフが利用者の動きについていけないときがある。滑り止めマットを敷き詰めるなどして対応したい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	子供の特性に合わせてプレイルームを使い分けている。また、毎日の掃除や活動終了時の消毒を徹底している。	ぬいぐるみや布生地の道具は小まめに天日干すように努める。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	0		全職員の意見を反映出来るような体制作りが必要であると認識し、取り組みたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	意見箱を設置し保護等の意見の把握に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	HPIに公表している。	公表しているが、スタッフ間での共有が不十分のようであるので、会議等で周知の徹底を図りたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5		第三者委員会の設置については今後の課題とする。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	今年度は新型コロナ対策として、ZOOMを活用したオンラインの症例検討(外部講師)を実施した。	スタッフの専門性や個別の関心に合わせた研修会の計画・立案に努めたい。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	専門職を配置し、検査などのアセスメントに従事している。	継続する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0	必要なアセスメントツールを適宜組み合わせ使用している。	継続する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0		対象児により異なるが、さらなる充実に向け、取り組みたい。また、支援ガイドラインについて職員の理解を深められるように研修会などを実施し、さらなる充実を図りたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	支援計画を作成した指導員を中心に支援の具体的な内容を検討し、実施している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	毎日の事前ミーティングで活動内容を検討している。	継続して実施する。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	子供が楽しめる活動を多く取り入れると同時に、同じ活動の繰り返しにならないように他のスタッフの意見も取り入れながら活動内容を検討している。 また、子どもからの希望も取り入れて立案している。	遊びが同じになりやすくバリエーションを増やしたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9	0	個別活動と集団活動それぞれのメリット・デメリットを踏まえた上で、支援計画の作成に努めている。	特性に応じ、実施出来ているケースと、そうではないケースがある。対象児の実態に応じ柔軟に調整したい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	朝礼・昼ミーティングにて毎日確認している。	継続して実施する。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	終礼にてふり振り返り・ヒヤリハットの報告を行っている。	時間的に十分でないとの意見がある。別途時間等を設け、共通認識を図りたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	毎日、支援の振り返りを行い、次回に繋げている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0	子供の状態の変化や保護者のニーズを適宜取り入れられるように努めている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0		可能な限り参加しているが、全てとは言えないため、今後は出来るだけ参加できるように努めたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0	ケースによっては連携している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	6	該当児なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	5	該当児なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	ケースによって対応している(移行支援に使用出来る評価、TASPや保護者のサポートブック作成を支援している。)	継続して実施する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	子どもの状態やニーズに応じて支援会議や保育所等訪問事業を活用している。	継続して実施する。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	発達障害者支援センター等が主催する研修会等に参加できるように努めている。 今年度は県外の児童発達支援事業所の専門家を外部講師に招き(ZOOM)研修を行うことができた。	継続して実施する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
自 と の 連 携	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	9	本所では、完全な通園スタイルではないため、対象児はほぼ全員地域の保育園等に通園している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	5	4	管理者等が参加している。	管理者等が参加しているが、職員への周知が不十分である点は今後の課題である。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	保護者が毎回来所しているため、その場で話をするように努めている。	新型コロナ対策として保護者の施設内への立ち入りを制限していることもあり、十分に情報交換することが難しい。人員配置を工夫したり、相談支援なども活用して対応したい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	5	特定のプログラムは実施していないが、子供への対応等について個別に適宜相談を行っている。また、サポートブック作成を通し、子どもの特性理解に向け取り組んでいる。	ペアレント・トレーニング等の実施については、保護者のニーズを把握し、可能な限り対応していきたい。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	契約時に個別に説明するとともに、重要事項等は事業所内に掲示してお伝えしている。	継続して取り組みたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0	今後も丁寧な説明を行い、理解を得られるように努めたい。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	来所時に気になることを連絡票を記入してもらっている。また、子どもに気になる様子がある時などには積極的に声かけし、保護者の悩み等に対応している。	継続して取り組みたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	7	グループ活動では、保護者間のピアカウンセリングの要素を意識する場合もある。また、保護者向けの勉強会を行っており、その中で保護者同士のつながりを保障していると思う。	年齢や特性別の勉強会等の開催に合わせ、保護者間の交流の機会を増やしていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	来所時に気になることを連絡票を記入してもらっている。相談がある時は別途時間を設け、担当者を中心に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	7	必要に応じて一斉メール等で行事予定を伝えている。会報はないがチラシや張り紙がある。特別プログラムはその都度紙面等でお知らせしている。	一斉連絡は書面の配布・掲示やメールだけでは不十分であり、連絡ツールについては検討が必要である。報告事項は、特定のグループや活動に応じ限られた状態である。さらなる発信の必要性について検討したい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9	0	今後も職員への周知徹底を継続していきたい。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	それぞれの子どもや保護者の特性について職員間で共有し、適宜対応している。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	9	実施していない。	地域の福祉祭り等での、ポスター展示等による周知は実施してきているが、地域の方を招待するような行事等は行っていない。当事業所の活動を理解してもらえるような遊び体験教室などを開催できるか検討したい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0		全ての保護者に周知することはできていないようなので、今後周知の仕方について検討する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	年2回、定期的に避難訓練を実施するとともに、その様子を事業所内に掲示している。	継続して実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	0	事前に保護者から聞き取りを行い、職員間で共有して対応している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3	定期的な食事の提供は行っていない。	調理活動の事前に確認しているが、好き嫌い(偏食等)を含め、更に丁寧な把握が必要だと考えられるため、活動立案に合わせ実施する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	2	事例集はないが、毎日のミーティングでヒヤリハットがあった場合報告して共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1	年間行事で研修を設定し、周知徹底を図っている。	虐待防止の観点から、保護者へのサポートについても今後、検討したい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	3	該当児なし	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。